住みよく、便利な神奈川へ！
公明党の要望で
道路整備が進む

神奈川県内では現在、高速道路などの整備が着々と進んでいます。これらは、公明党として、国土交通省に早期実現を要請してきたものです。

2020年に開通の①横浜湘南道路（延長約7.5キロメートル）、②高速横浜環状南線（延長約8.9メートル）は、横浜市街地から湘南地域を経て、圏央道海老名ジャンクション、そして八王子ジャンクションにつながる予定です。

また、③横浜環状北西線は、東名高速・横浜青葉インターチェンジと第三京浜道路・港北インターチェンジを結ぶ道路で、すでに開通している④横浜環状北線に連結し、横浜北部から横浜市街地、東京湾岸地域へとつながります。さらに、⑤新東名高速道路も2020年度に「御殿場―海老名」間が全面開通の予定です。

これらの整備で、県内の渋滞は大きく緩和。移動時間の短縮にもつながることから、物流効率の向上や観光産業の活性化をはじめ、災害時の緊急輸送路としての活用といった防災面の強化などにも期待されています。鉄道網なども含め、今後もさらに交通網の整備に力を注いでいきます。

一人一人の声をカタチに――地方議会ニュース

神奈川県
私立高校の授業料無償化枠が拡大

県内の私立高校の授業料の実質無償化が、本年4月から年収約590万円未満の世帯まで拡大。これまでは年収約250万円未満の非課税世帯が対象でしたが、対象世帯は大幅に広がることになります。2020年からは国による無償化枠の拡大が決まっていますが、今回、神奈川県議団の粘り強い訴えで、国に先駆けての実施となりました。

横浜市
市民の命を守る防災・減災対策を推進

道路の陥没事故防止のため、横浜市議団では路面下空洞調査を提案。緊急輸送路（380キロ）や消防署・警察署等への接続道路の調査が終了し、2016年度からは幹線道路（約600キロ）の調査が進んでいます。また、集中豪雨により下水道から雨水があふれる浸水区域を示す「内水ハザードマップ」の作成を提案。15年度に浸水想定区域に各戸配布されました。

川崎市
災害時における飲料水確保を実現

災害時における飲料水の確保のため、川崎市議団では避難所などにつながる水道管の耐震化を推進。これまでに市立中学校52校、医療機関77施設で完了しました。また、水道施設が被害に遭った場合でも給水ができるよう、避難所に指定されている市立全ての小・中学校を「応急給水拠点」として整備。2023年度までに完了する予定です。

相模原市
小児医療費助成が中学3年まで拡充

相模原市議団が進めてきた「小児医療費助成制度」が拡充。これまで小学6年生までだった小児医療費の助成適用範囲が、本年10月から中学3年生まで拡大されました。中学生の通院では、診察等で500円を上限として自己負担がありますが、薬代は全額が助成対象に。小学生までは従来通り、通院、薬代ともに全額が助成されます。

発行：公明党神奈川県本部　横浜市中区山下町74-1　TEL：045-201-3531　FAX：045-212-3810

K・O・M・E・I
KANAGAWA
神奈川県本部ニュース
2018・AUTUMN

KOMEITO 公明党

来年夏の参院選・神奈川選挙区
佐々木さやか氏を公認

公明党は7月2日、来夏の第25回参院議員通常選挙（来年7月任期満了）の神奈川選挙区予定候補として、現職の**佐々木さやか氏を公認**しました。

佐々木さやか氏は2013年（平成25年）の初当選以来、誰もが安心して、安全に暮らせる社会を実現するために、情熱をもって議員活動に奔走してきました。中でも、希望あふれる未来を築くための原点は教育にあるとの信念のもと、教育費の負担軽減に力を尽くし、給付型奨学金の拡充や幼児教育の無償化などの道筋を開いてきました。

佐々木氏は2期目への挑戦に当たり、「市民生活の現場に分け入り、生活者の声を国政に反映する公明党の原点を胸に、さらなる決意で小さな声に耳を傾けていきたい」「少子高齢化による介護や子育ての課題に対し、社会の絆を強めていく政策を推し進めていきたい」と決意を述べました。

山口代表から公認証書を受け取る佐々木

県本部スクスク子育てプロジェクトチーム
「スニーカー・アクション」
スナノミ症対策で運動靴をアフリカへ

スナノミというノミが媒介し、主に足の指や爪、かかとに感染する「スナノミ症」。命に危険を及ぼすこともあるため、ケニアなどアフリカでは深刻な問題となっています。その予防には靴を履くことが有効なことから、公明党神奈川県本部のスクスク子育てプロジェクトチーム（座長＝佐々木さやか参議院議員）は5月、不要になったスニーカーを集めてアフリカの子どもたちに送る「かながわ・スニーカー・アクション」を横浜市内で実施。7月には、靴を現地へ送る運動を展開するＮＰＯ法人「日本リザルツ」の浅野茂隆理事長、白須紀子代表らに運動靴1660足を寄託しました。

ＮＰＯ法人の日本リザルツに寄託（7月9日、都内で）

佐々木座長が「神奈川の皆さんの真心で集まった靴を、現地の子どもたちのために活用してほしい」と伝えると、白須代表は、公明党の協力に謝意を表明。「感染した子どもたちは笑顔を失っていた。こうした実態を、公明党の皆さんの力で一人でも多くの方々に伝えていただき、支援の輪をさらに広げていただきたい」と語りました。

未来に責任。 人に寄り添い、日本の「未来」を支えます

日頃より心温まるご支援をいただき、
本当にありがとうございます。
国の未来を決めるのは、言葉ではない。
行動である。
その信念で、今の暮らしや将来への
不安などで苦しむ多くの方々の声を伺い、
その声に応えるために走り抜いてきました。
世界でも類を見ない少子高齢化の今こそ、
国のかじ取りが重要です。
生活スタイルが多様化する現代だからこそ、
一人一人が幸せを実感できる日本、
そして、多くの人が生き生きと輝く社会を
築いてまいります。
希望の「未来」を開くことこそ、
政治の「責任」との決意で。

「佐々木さやかの魅力を紹介」

約束

「安心」を支えます。
- 女性の視点を生かした防災・減災対策を推進し、災害に強いまちづくりを進めます。
- がん対策の推進や患者の医療費負担の軽減を目指し、国民の健康を守ります。
- ブラック企業対策やいじめ相談窓口の整備を進め、若者の未来を守ります。

「経済」を支えます。
- 医療・介護ロボットなどの先端技術の開発を進め、新産業の育成を後押しします。
- 自然エネルギーの活用など、地球にやさしいエネルギー政策を促進します。
- 中小企業を守るため、所得拡大促進税制の拡充などを力強く推し進めます。

「生活」を支えます。
- 幼児教育や高等教育（大学・専門学校など）の無償化等、教育の負担軽減に努めます。
- 高齢者を雇用した企業への助成金の支給等、高齢者の活躍を後押しします。
- 働き方改革や待機児童ゼロを進め、子育てしながら働ける社会を築きます。

「地域」を支えます。
- 各地の優れた産品のブランド化を応援。外国人観光客の誘客を推進します。
- 「収入保険制度」の充実などで、農業経営者・新規就農者を支えます。
- 東京五輪に合わせ、道路の渋滞緩和や鉄道の利便性向上などに尽くします。

実績

法律のプロとして80以上の法改正に尽力

弁護士として東日本大震災の時に被災地の法律相談に当たった経験から、大規模災害時に誰もが無料で法律相談を受けられるように法整備（熊本地震から適用）。さらに性犯罪を厳罰化する110年ぶりの刑法改正や、がん患者が医療用帽子を着用して運転免許証の写真を撮影できるようにするなど、これまで80以上の法改正に当たりました。

120回以上の国会質問！ 抜群の存在感

佐々木さやかの国会での質問回数は、参議院議員１期ながら120回以上（2018年４月現在）。これは新人議員としては異例の数で、“10年分の経験をした”と評する議員もいるほど。その中で、中小企業事業者の設備投資にかかる固定資産税を大幅に軽減する制度の導入といった中小企業支援など、さまざまな政策を推し進めてきました。

若者の声を大切に！ 68項目の政策提言

党学生局長に就任して約２年。多くの学生との懇談を受け、若者支援に関する68項目の提言を政府に要望し、私立高校授業料の実質無償化や返済不要の給付型奨学金の創設を主導してきました。2015年には、一人の女性から海外留学に伴う奨学金の相談（高校卒業後２年以内に申請しなければ支給されないという枠組みの撤廃）を受け、１年後にスピード実現させました。

PROFILE
●参議院議員１期（神奈川選挙区）。横浜市在住（青森県八戸市出身）。●創価大学法科大学院卒業。弁護士。税理士。●参議院決算委員会理事、憲法審査会委員。●党女性委員会副委員長、青年委員会副委員長、学生局長、神奈川県本部副代表。●趣味は音楽鑑賞、お菓子を食べること。根性と忍耐がモットーで、涙もろくて義理堅い性格。尊敬する人は両親、ローザ・パークス。
（肩書きは2018年9月現在）

LINE 友だち追加
@sayaka_sasaki

ホームページ	https://sasaki-sayaka.com
Twitter	@sayaka_sasaki
Facebook	@sayaka.sasaki.jp
メルマガ会員募集中！	join@sasaki-sayaka.com

公明党県議団が奔走── ネットワーク力で前進させます！

盲ろう者への支援の輪を

県立の障がい者施設で起きた大量殺傷事件から２年。公明党神奈川県議団では、“障がいがあっても生まれてきて良かった”と言える社会の実現のために奔走しています。最近では、目と耳が不自由な「盲ろう者」の理解促進と支援に力を注いできました。
国会では３月、佐々木さやか参議院議員が「盲ろう者への支援充実、障がい者への理解、認識を深める啓発に力を」と訴え、安倍首相が「盲ろう者の生活の困難さについて周囲の理解が促進されることが非常に重要」「盲ろう者の方々が地域で安心して暮らせるよう取り組んでいく」と返答。神奈川県議会でも、盲ろう者への支援の充実を訴え、県から“来年度（2019年度）のできるだけ早い時期に、盲ろう者支援センターを設置したい”との回答を得ました。
これからも、公明党のネットワーク力で、神奈川、全国へと障がい者支援の輪を広げていきます。

神奈川盲ろう者ゆりの会の三田幸司会長と懇談（７月１日、川崎市内で）

SNSで「いじめ」根絶へ

近年、中高生の多くがコミュニケーション手段として活用するSNS。そのSNSを通じた「いじめ」などのトラブル、また、いじめを受けて一人で悩む子どもたちへの対応が課題となっていることから、昨年11月、佐々木さやか参議院議員らが名を連ねる公明党文科部会では、SNSを活用したいじめ相談体制の構築案を安倍首相に申し入れ。首相はすぐに検討する意向を示しました。
それと並行し、公明党神奈川県議団も、中高生のいじめ相談対応に動いてきました。県内では、高校生の９割、中学生の７割がスマホを持ち、そのうち98%がLINEを利用していることから、いじめ相談にLINEなどのSNSを活用するよう県議会で提案。佐々木さやか議員と連携し、国の補助金を活用して９月から２週間、県内101校、生徒約５万8000人の中高生を対象に、SNSによる「いじめ相談」を試行的に実施しました。この試行期間の結果を踏まえながら、神奈川では、「いじめ」撲滅のためのさらなる体制を整えていきます。

公明党文科部会が安倍首相にSNSによるいじめ相談体制の構築案を申し入れ（昨年11月22日、都内で）